MR SERIES

パワード・スタジオモニター・スピーカー

オーナーズ・マニュアル

Ver. 1.0

MACKIE®

株式会社 サウンドハウス

〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3　TEL: 0476-89-1111 FAX: 0476-89-2222
https://www.soundhouse.co.jp　E-mail: shop@soundhouse.co.jp

安全上の注意

- この製品を使用する前に本書をよくお読みください
- 本書は必要なときに見返せるよう、大切に保管してください
- 警告表示には必ず従って、正しくご使用ください
- 水のかかる場所や湿気の多い場所では使用しないでください
- 本機を液体のかかる場所に置かないでください。また操作や電源コードの取り扱いは、濡れた手で行わないでください
- お手入れは乾いた布で行ってください
- 製品の通気口をふさがないでください
- 電源を接続する前に、本製品の電圧仕様が使用する地域の電源電圧と一致していることを確認してください。適切に設置されたコンセントを使用してください。
- 雷が接近している場合や、長期間本製品を使用しない場合には、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください
- 意図しないトラブルが起こったときのために、電源プラグや電源スイッチを容易に操作できる状態にしておいてください
- 本製品および電源コード、接続ケーブルを暖房器具やストーブなど熱を発する機器の近くには設置しないでください。また裸火を近づけないでください
- 本製品の近くで可燃性ガスを使用したスプレーなどを噴射しないでください。引火のおそれがあります
- 本製品を移動するときは、電源ケーブル、接続ケーブル等をすべて抜いてから行ってください
- 電源コードを踏んだり、挟んだりしないようにしてください
- 付属の電源ケーブルをほかの電化製品に使用しないでください
- メーカーが指定した付属品・アクセサリーのみを使用してください
- ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないでください。本体の故障や、けがをする可能性があります
- スピーカーは定格範囲内で使用してください。定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると故障の原因になります
- 安定した場所に設置してください。落下などにより破損したり、周囲の方が負傷する場合があります
- 吊り下げて使用しないでください。吊り下げて使うように設計されていないため、製品が落下して人命に関わる事故の原因になる可能性があります
- 修理や点検は、必ず専門の技術者にご依頼ください。
  以下のような場合には、製品の修理が必要です
  - 液体をこぼした、異物が製品内部に入り込んだ
  - 落下や踏みつけなどで、本体または電源コードやプラグ等が損傷した
  - 雨や強い湿気にさらされた
  - 正常に動作しない
  - 異臭や異常を感じた
- テレビやラジオ、携帯電話の近くで使用するとノイズが発生する場合があります
- 大音量で使用しないでください。聴覚障害を引き起こす可能性があります。また、音量にかかわらず長時間の聴取により継続的に耳に負担をかけ、聴力に悪影響を及ぼす可能性があります

注意 感電の危険があるため、カバーを取り外さないでください。
修理は必ず専門の技術者にご依頼ください。

※本製品を廃棄する際は、お住まいの地域で定められたルールに従って処分してください

アイコンの説明

特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。手のひらアイコンにて示される領域には、特に注意を払うことをおすすめします。

このアイコンは、シリーズの使用に関連する特定の機能などを説明しています。

MRシリーズの特徴

- どんな環境でもプロフェッショナルサウンドを実現し正確で高品質なミキシング作業をサポート
- 20年以上にわたるMackieスタジオモニターの開発技術を活かした高域ウェーブガイドデザインを搭載
  - 広い範囲でステレオイメージと快適なリスニングポジション（スイートスポット）を確保
  - 精密に設計されたウェーブガイドにより、優れた周波数特性とバランスの良いサウンドを実現
- 1インチ・シルクドーム・ツイーターは、繊細な高音域とクリアなボーカル表現を可能にする高速レスポンスを提供
- ポリプロピレン・ウーファーは好反応かつダイナミックな低域を再生
  - MR524: 5.25インチ
  - MR624: 6.5インチ
  - MR824: 8インチ
- バイアンプ駆動のA/B級パワーアンプを搭載
  - MR524: 50W
  - MR624: 65W
  - MR824: 85W
- 周波数特性
  - MR524: 45 Hz – 20 kHz
  - MR624: 38 Hz – 20 kHz
  - MR824: 35 Hz – 20 kHz
- 環境に合わせた設置が可能
  - 設置環境に合わせて調整できる3パターンのAcoustic Space Controlフィルターを搭載
  - 部屋の音響特性に応じて、ブースト・カットが可能なHFフィルター
- 耐久性に優れ、どんなスタジオに設置してもデザイン性を損なわないプロ仕様の中密度繊維板（MDF）キャビネット
  - 特別に設計された内部構造は、歪みを抑え低周波レスポンスを拡張
- どんなオーディオソースにも対応する、シンプルかつ豊富な入力端子を搭載
- 共振を最小限に抑えることのできる振動吸収ラバーが付属
- 別売りの「MRS10スタジオサブウーファー」を追加することで、EDMやヒップホップに最適な、パワフルで深みのある低域を実現できます

はじめに

Mackie New MRシリーズは、プロフェッショナル・クオリティの性能とクリアな音質を兼ね備えたパワード・スタジオモニターシリーズです。どこで再生しても、あなたのミックスが素晴らしく聴こえることをお約束します。

20年以上にわたるスタジオモニター設計の経験を活かし、ダイアログ、ヒップホップ、ロックなど、さまざまなジャンルでミックスの魅力を最大限に引き出せるよう、細かくチューニングされています。

緻密に計算されたウェーブガイドは広範囲において、自然なステレオイメージと快適なリスニングポジションを実現します。また設置環境に応じて調整できるAcoustic Space Controlにより、最適なサウンドを実現します。さらに、MRS10 パワード・スタジオサブウーファーを追加すれば、パワフルで深みのあるローエンドを再生可能です。

最も重要なのは音楽そのもの

MRシリーズの設計は、理論だけでなく実際に音楽をじっくり聴くことからスタートしました。Mackieのエンジニアたちは測定データだけでは表現できない本物のサウンドを目指し、膨大な時間と労力を費やしました。ありとあらゆるジャンルの音楽を繰り返し聴き比べ、さまざまなパーツの組み合わせを検証しながら徹底的にテストを重ねました。

次に焦点を当てたのは、音の回り込みを抑えてクリアなサウンドを実現する、ウェーブガイドなどの音響を最適化する仕組みです。絶妙なバランスと高い解像度を実現するマッチングのとれたアンプやドライバーなど、内部のあらゆるコンポーネントにも一切の妥協がありません。

スタジオモニター製作の歴史

Mackieは20年以上にわたりスタジオモニターの製作に携わってきました。そして遂にMackieの経験豊かなエンジニアたちが、音楽を愛する気持ちをダイレクトに表現する本格的なスピーカーを完成させました。MRシリーズは、音楽ファンからプロの制作現場まで幅広いニーズに応えるために改良を重ね、高い明瞭度と深みのあるサウンドを実現。ホームスタジオやプロジェクトスタジオで即戦力として活躍します。

原音を忠実に再現する設計

Mackie New MRシリーズは、「サウンドの特徴を正確にモニタリングしたい」というプロフェッショナル・スタジオモニターに求められる最も重要なニーズに応えるため、細部にまでこだわって設計されています。カスタム設計のポートはパンチと伸びのある低域を再現します。また、頑丈な木製キャビネットは不要な振動を抑えることで、より正確で安定した音響特性を実現します。

多目的用途に対応

すべてのスタジオには、それぞれ独自の音響特性があります。そのため、適切な接続方法と設置場所にあわせた調整が必要になります。

MRシリーズには、設置環境に合わせて音を調整できるAcoustic Space Controlが内蔵されています。高域もブースト/カットでき、理想のサウンドにすることが可能です。

また、3種類の入力端子（XLR、TRSフォン、RCA）を搭載しており、さまざまなシステムや機器にも柔軟に対応します。

クイック・スタートガイド

1. 電源を入れる前に、背面にあるLEVELコントロールのツマミを左に回しきって、音量を最小にしてください。
2. スピーカー背面のスイッチがオフになっていることを確認してください。これにより、ケーブルを接続したときに発生する大きなノイズを防ぐことができます。
3. ACOUSTIC SPACEスイッチとHIGH FREQ FILTERスイッチはNORMALポジションにしてください。
4. ミキサーやプリアンプ、またはその他のデバイスからのラインレベルの信号を、リアパネルの入力端子（TRSフォン、XLR、RCA）に接続してください。
5. リアパネルのIECコネクターに電源コードを差し込み、もう一方の端をコンセントに接続してください。この際、電源ソケット付近に記載されている仕様に合った電源を使用してください。
6. 音源ソース（8トラックプレイヤー、ターンテーブル、CDプレイヤー、DAW等）を再生します。（ミキサーもしくはプリアンプのマスターボリュームは動かさないでください）
7. スピーカー背面の電源スイッチを入れてください。フロントパネルの電源LEDが点灯します。
8. LEVELコントロールのツマミを、NORMALポジションまでゆっくりと時計回りに回してください。
9. ミキサーもしくはプリアンプのマスターボリュームを聞きやすい音量になるよう調整してください。ミキサーもしくはプリアンプのマスターボリュームを少し調整しただけでもすぐに音量が大きくなってしまう場合、LEVELコントロールツマミをセンター（12時の方向)まで下げることで、ミキサーもしくはプリアンプで調整できる幅が広がります。

さまざまな活用例

- **ホームレコーディングやプロジェクトスタジオ**
  ソロアーティストや小編成のバンド、DJの音楽制作、ポストプロダクションの編集/音声や音楽制作のミックス、レコーディング、ミックスダウン、マスタリング。
- **放送局スタジオ**
  音声のみの生放送/ライブストリーミングやラジオ・TVといったAVコンテンツ。ポッドキャストやオーディオストリーミング、ナレーションのプロダクション/ポストプロダクションに最適。アフレコ用途にも使用可能。
- **映像ポストプロダクション**
  CMや映像制作、ネット配信などに
- **ホームシアターやその他のマルチメディア**
  音楽や映画の再生や、テレビゲーム、パーティなどに

低域特性とコントロールルームに関する重要な事項

MRシリーズは、低音再生に適した空間では最高の低域特性を実現します。しかし部屋の形状や大きさ、設置場所、音響処理など複数の要因が重なることで、不要な低音が増幅されてしまう場合があります。

これはMRシリーズだけでなく、他社製のハイエンド・スピーカーでも同様の結果を招く可能性がある、音響上の物理的課題です。なお、MRシリーズには部屋の環境に応じてスピーカーの周波数特性を調整できる補正機能を搭載しています。詳しくは、このあとの項目をご確認ください。

低域周波特性

MRシリーズを壁の近くや部屋のコーナー設置すると、低域の響き方が変わることがあります。壁の近くに設置すると、必要以上に低音が増幅されることがあり、部屋のコーナーに設置すると、さらにその傾向は強くなります。

壁の近くにモニターを設置して、低音が強すぎると感じた場合は、ACOUSTIC SPACEスイッチを「−2 dB（Half Space)」の位置にセットしてください。モニターを部屋のコーナーに設置している場合は、「−4 dB（Quarter Space)」の位置にセットしてください。

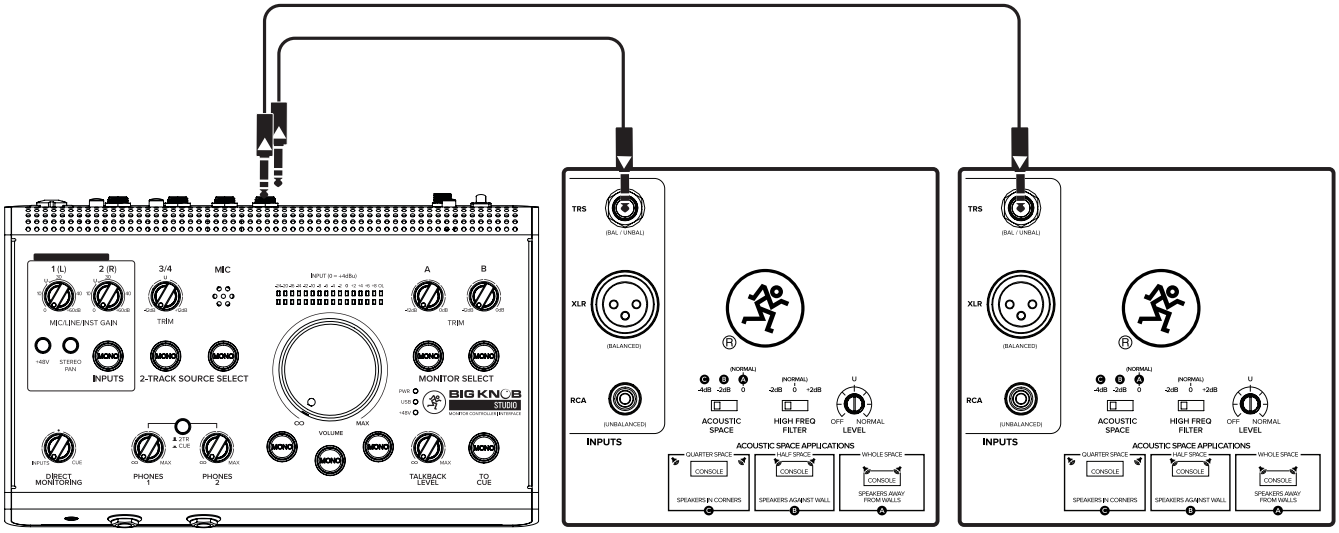
高域周波数特性

MRシリーズは、中高域をなめらかに再現するよう設計されています。それでも、ミキシング中にもう少し高域がほしいと感じたり、高域をカットしたい場合もあると思います。そのような場合は、HIGH FREQ FILTERスイッチを使用することで、ツィーターからの高域をわずかにブースト、またはカットすることができます。高域をブーストすれば、ぼやけてしまったミックスを改善でき、カットすれば過剰にきらびやかなミックスを改善できる可能性があります。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因になる可能性があります。P.2の安全上の注意をよく読んでください。
- 一般的に機器の電源を切る際は、最初にモニターの電源を切ってください。そうすることで、他の機器から発生するノイズのリスクを軽減できます。電源を入れる際は、モニターを最後に入れるようにしてください。
- 梱包箱はなるべく保管しておいてください。製品を移動・保管・修理に出す際などに必要になる場合があります。

接続例



MR524, MR624, MR824　　MR524, MR624, MR824

MRスタジオモニターの接続はとてもシンプルです。ここでは、よくある接続例を紹介します。この例では、音源ソースが Big Knob Studio の入力端子に接続されています。

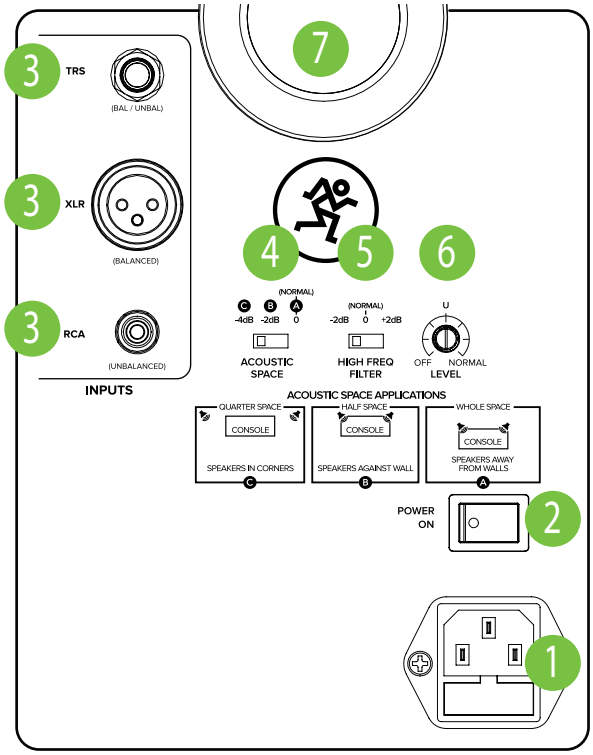
Big Knob StudioのメインL/R出力を、MRスタジオモニターのTRSフォン入力端子にTRSケーブルを使ってそれぞれ接続してみましょう。

これで接続は完了しました。あとは音源を再生するだけです。

Typical MR Series Setup

リアパネルの機能

リアパネルでは、モニターに信号を接続し、部屋の環境にあわせてスピーカーの周波数特性を調整することができます。



❶電源とヒューズ

電源コードを本体のIECソケットに接続し、コードの反対側をコンセントに接続します。接続前に、コンセントの電圧がIECソケット横に刻印されている仕様と一致していることを確認してください。日本国内正規輸入品のMRシリーズは100V専用モデルです。

グラウンドピンを必ず接続してください。ピンを折ることは大変危険です。お止めください。

ヒューズはIECソケットの下部にあるヒューズカバーの裏側にあります。ヒューズの交換についてはP.9にある「トラブルシューティング」を参照してください。

❷電源スイッチ

左側に押しこむことで電源が入ります。電源を入れる前に、LEVELコントロールが最小になっていることを必ず確認してください。電源ケーブルとコンセントが正しく接続されている状態で電源が入ると、フロントパネルのLEDが緑色に光ります。

このスイッチを右側に押し込むと、モニターはスタンバイ状態になります。この時、音は出ませんが回路に電気は通っています。電源を完全にオフにする場合は、本体もしくはコンセントから電源コードを抜いてください。

❸入力端子

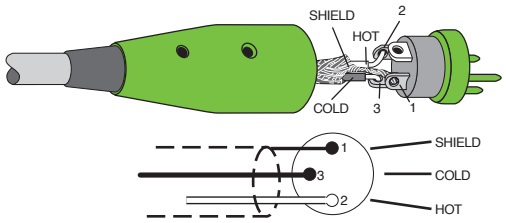
ミキサーやその他の音源機器からのラインレベル出力を、これらの入力端子のいずれかに接続します。MRシリーズは、バランスXLR端子、バランス/アンバランス1/4インチ端子、アンバランスRCA端子の3種類を搭載しています。これらの入力端子は電気的に相互接続しているため、複数の端子を同時に使用しないように注意してください。

※長さが6メートルを超えるオーディオケーブルを用いて接続する場合は、ノイズに強い構造のバランス伝送ケーブルを使うことをおすすめします。

配線は以下のようになっています。これはAES(Audio Engineering Society)が定めたものです。

バランスXLR

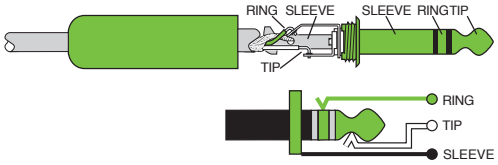
ホット（+）	2ピン
コールド（−）	3ピン
シールド（グラウンド）	1ピン



バランスXLRコネクター

バランスフォンTRS

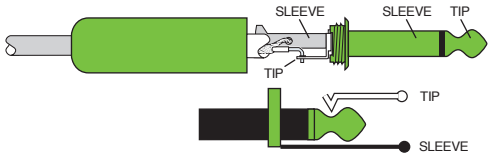
ホット（+）	チップ
コールド（−）	リング
シールド（グラウンド）	スレーブ



バランスTRSフォン（1/4インチ）

アンバランスフォン

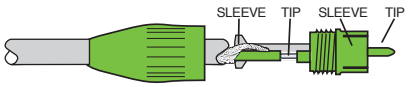
ホット（+）	チップ
シールド（グラウンド）	スレーブ



アンバランスTSフォン（1/4インチ）

アンバランスRCA

ホット（＋）	チップ
シールド（グラウンド）	スレーブ

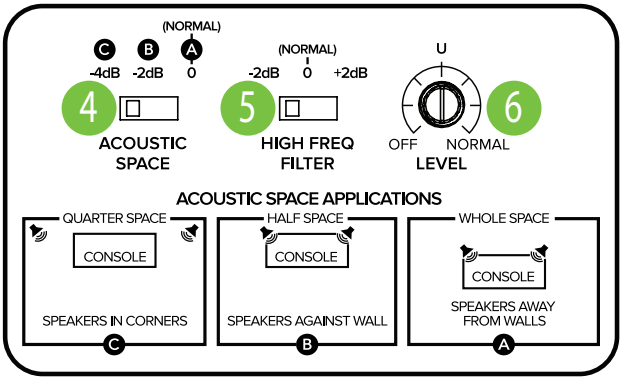


RCAアンバランスコネクター

❹Acoustic Space

3ポジションの切り替えスイッチ。設置場所に応じてモニターの低域特性を最適に調整することができます。

- モニターを壁やコーナーから離れた場所に置く場合（全球形空間[whole space]）は、Acoustic Spaceスイッチを、Ⓐ(NORMAL)の位置に設定してください。
- モニターを壁際に置く場合（半球形空間 [half space])は、Acoustic Spaceスイッチを Ⓑ の位置に設定します。この設定の場合、シェルビング・フィルターで低域出力を2dB抑えて半球形空間を補正します。
- モニターを部屋のコーナーに置く場合（四半球形空間[Quarter]）は、低域出力が半球形空間の約2倍になります。この設定の場合、Acoustic Spaceスイッチを Ⓒ の位置に設定することで、シェルビングフィルターが低域出力を4dB抑えて半球形空間を補正します。



❺High Frequency Filter

このスイッチは、3kHzより上の高域を±2dBするためのものです。下記の状況にならない限り、このスイッチは「0（NORMAL）」の位置にしてください。

- スピーカーのサウンドをわずかに明るくしたい、または落ち着かせたい場合
- ミックスの明るい部分、もしくはくすんだニュアンスを聴きたい場合

どの場所で聴いてもサウンドが鈍かったり、暗く感じられる場合は、大抵モニターが通常の聴覚に対して明るすぎることを示しています。スイッチを「-2dB」の位置に切り替えてモニターの高域出力を抑えることで、これを改善できます。

反対にミックスが一貫して明るすぎると感じる場合、モニターに高域エネルギーを追加することで、結果としてミックスに含まれる高域成分を減らすことができます。

夢中で作ったミックスは、音量が大きくなっていることが多いです。ですが、そうして作られたミックスは、その大音量で聴いたときにしか良く聴こえないことがあります。一方で、控えめな音量で作られたミックスは、多少音量を上げて再生しても、バランス良く聴こえることがあります。

サウンドレベルメーターの数値だけに頼らないようにしましょう。自分がどの音量でミックスするかをあらかじめ決めておき、レベルメーターはその設定に合わせるための補助として使うようにすると、ミックスの仕上がりがぐっと良くなります。

❻Level

このノブは、入力される信号の感度を調整するためのものです。MRシリーズには、ラインレベルの信号を入力してください。

- LevelコントロールをNORMALの位置（右に回しきった状態）にすると、+4dBuの信号で動作するように設計されています。これは音量に制限がかかっていない状態を意味します。
- レベル設定の手順はP.4にある「クイックスタート」を参照してください。

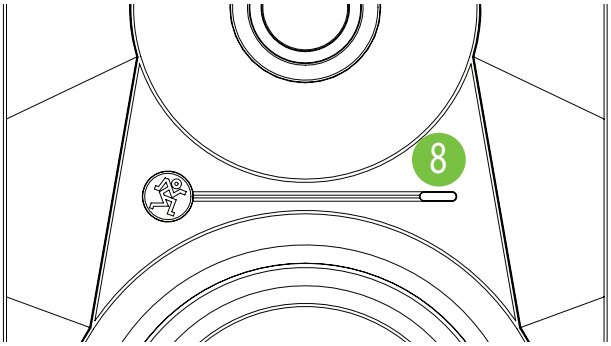
❼カスタムチューンド・リアポート

このポートにより、ウーファーの後面から出る低域の音波を反転させて正相として放射させ、なめらかで豊かな低域を実現します。ポートのサイズは、キャビネットの容積とウーファーの特徴に合わせて最適な大きさに設計されています。

フロントパネルの機能

❽フロントパネルLED

MRモニターに信号が入力されていて動作中であることを示すインジケーターです。信号が有効なときは緑色に点灯します。



保護回路

MRシリーズには、不注意による損傷からスピーカーを守るための保護回路がいくつか搭載されています。

【注意】保護回路は、特定の条件下でスピーカーを破損から守るために設計されています。ただし、過大な歪みなどの警告サインを無視し続けた場合、アンプがクリップし、それを超えて過剰にドライブされ続けると、スピーカーを損傷させてしまう可能性があります。このような使用による損傷は保証の対象外となりますので、ご注意ください。

オーバーエクスカージョン保護

低域アンプの直前にある12dB/Octのハイパスフィルターは、アンプへ届く信号から超低域周波数をカットする働きをします。音として聴こえない極端な低周波帯域はウーファーにダメージを与える可能性があります（オーバーエクスカージョン）。

熱保護

すべての動作中に熱を発生させます。MRシリーズは、電力効率と放熱性能の両面で優れた設計がなされています。

- 何らかの理由でヒートシンクの温度が異常に高くなると、自動的にスイッチが作動してアンプの電源がOFFになります。低域用アンプと高域用アンプの保護回路はそれぞれ独立して動作するため、片方だけが一時的に停止し、低域のみしか聴こえなくなったり、反対に高域のみしか聴こえないような状況が起こる可能性もあります。
- ヒートシンクの温度が安全なレベルまで下がると、スイッチがリセットされ、アンプは通常通りの動作に戻ります。
- ただし、再びヒートシンクが過熱すると、アンプの停止が再度発生します。このような状態が何度も続く場合は、本体背面の通気がふさがれていないかを確認してください。

磁気シールド

MRシリーズには強い磁気を持つユニットが搭載されています。また搭載されているスピーカードライバーユニットには、磁気シールドが施されていません。このようなシールドしていないスピーカーをブラウン管を使ったディスプレイの近くに設置すると、画像の色や形が歪んでしまう場合があります。特に感度の高いPCモニターやテレビがある場合は、スピーカーをそれらから10cm程度離して設置してください。

入力信号の配線

MRシリーズの入力端子に信号ソースを接続する際は、高品質なシールドケーブルの使用をおすすめします。

MRシリーズは3種類の入力コネクターに対応しており、ほとんどの音響機器との接続に対応できます。

- XLR入力端子には、ノイズに強いバランスタイプのマイクケーブルの使用が適しています。
- 1/4インチ入力端子には、バランスTRSフォン、またはアンバランスTSフォンのどちらも接続可能です。
- アンバランス接続のフォノケーブルは、RCA入力端子に接続できます。

NOTE

オーディオケーブルは、電源ケーブルやコンセントなど電磁干渉を起こす機器の近くには置かないでください。これらはハムノイズの原因になります。特に、壁のコンセント周辺や複数のケーブルが束ねられている場所では、ハムノイズが発生しやすくなるため注意が必要です。

NOTE

一部のホームシアター環境では、レシーバーにプリアンプ出力やライン出力が搭載されていないことがあります。そのような場合には、やむを得ずレシーバーのスピーカー出力をMRスタジオモニターの入力に直接接続する必要が生じることがあります。

【注意】スピーカー出力の信号をMRシリーズに直接接続しないでください。スピーカーレベルの信号はラインレベルよりも大きいため、MRシリーズの入力回路が損傷する可能性があります。

※レシーバーのスピーカー出力からMRシリーズへ接続する際には、必ず間にアッテネーターを使用してください。正しい接続方法については、MRシリーズをご購入した販売店にご相談ください。

お手入れとメンテナンス

MRシリーズは、以下のガイドラインを守ってご使用いただければ、長く安心してお使いいただけます。

- 本機を湿気や霧などにさらさないようにしてください。
- 氷点下を含む極端に寒い場所での使用は避けてください。
- キャビネットのお手入れは、乾いた清潔な布で行ってください。必ず電源を切った状態でお手入れしてください。

サービスについて

モニタースピーカーに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品を購入した販売店まで修理をご依頼ください。

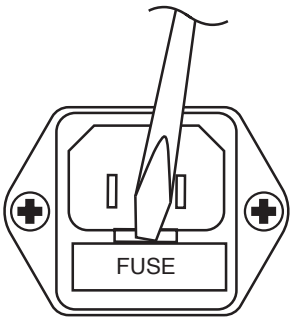
トラブルシューティング

電源が入らない

- 電源コードがきちんと接続されているか確認してください。
- 電源ケーブルが、ソケットの奥までしっかりと挿し込まれているか確認してください。
- コンセントが電力を供給しているかを、テスターなどを使用して確認してください。
- リアパネルの電源スイッチの位置がオンになっているか確認してください。
- フロントパネルの電源LEDが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されていない可能性があります。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- 電源LEDが点灯しておらず、コンセントに問題がないことが分かっている場合、ヒューズが切れている可能性があります。ヒューズ交換方法は次の項目を参照ください。

ヒューズを交換する際の手順

1. 電源ソケットから電源コードを抜いてください。
2. 小さなドライバーでヒューズカバーを引き出すようにして開けてください。ヒューズカバーはスライドして取り出すことができます。



3. ヒューズを外して同じ種類のものに交換してください。
   - 115 VAC: T 1 AL / 250 V　[MR524]
   - 115 VAC: T 1.6 AL / 250 V　[MR624]
   - 115 VAC: T 2 AL / 250 V　[MR824]
4. ヒューズカバーを元の場所に押し込み、電源コードを接続し直してください。

※ヒューズが2回続けて切れた場合は、内部に異常が発生している可能性があります。ただちに使用を中止し、本製品をご購入いただいた販売店に修理を依頼してください。

音が出ない

- フロントパネルの電源LEDが点灯しているか確認してください。点灯していない場合は、左記の「電源が入らない」をご覧ください。
- LEVELコントロールノブが上がっているか確認してください。
- 音源の音量は上がっていますか？ミキサーもしくは接続されているデバイスの音量が十分に上がっているか確認してください。
- ステレオペアとして使用している場合は、左右のスピーカーを入れ替えてください。例えば左のスピーカーから音が出ない場合、スピーカー側で左右のケーブルを入れ替えてください。その操作で音が鳴った場合、原因はモニターではなくケーブルや音源である可能性があります。

音が良くない

- 入力コネクターに1/4インチTSフォンもしくはTRSフォンを使っている場合、奥までしっかりと挿し込まれていることを確認してください。
- 音量が大きくて歪んでいる場合は、ソースの音量が適切なレベルに調整されているか確認してください。
- ヘッドホンを使用してプリアンプ段階の音源を確認してください。もしそこで音質に問題がある場合は、モニター以外に原因がある可能性があります。
- 低域が出過ぎている、もしくは低域が足りないと感じる場合は、モニターの配置場所を変えて、低域のレスポンスが変化するか確認してください。部屋の形状により低域がブーミーになったり、逆に薄く聴こえることがあります。

ノイズが出る

- ミキサーとモニター間の接続を確認してください。ケーブルがしっかり接続されていないとノイズの原因になる場合があります。
- アンバランス出力をMRモニターのバランス入力に接続している場合、シールドがソースのグラウンドとXLRのピン1/ピン3（またはTRSフォンのスリーブとリング）に接続されていることを確認してください。
- CATVケーブルがシステムに接続されている場合は外してください。これによりハムが消えた場合は、ケーブルテレビ会社にケーブルのアース接地状況の確認を依頼してください。
- 信号ケーブルを電源コードやACアダプターなどの電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。ノイズの原因になる場合があります。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーやSCRベースの機器を接続している場合は、AC電源フィルターを使うか、スピーカーを別の電源回路に接続してください。ディマーがバズノイズの原因となっている可能性があります。
- ヒスノイズが発生している場合、スピーカーへ入力される前のゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- ヘッドホンで音を確認してください。そこでノイズが確認できた場合は、原因がモニターでは無い可能性が高いです。

技術情報　MRシリーズ仕様書

音響特性

周波数特性 (-3 dB):	57 Hz - 20 kHz [MR524] 45 Hz - 20 kHz [MR624] 38 Hz - 20 kHz [MR824]
周波数特性 (-10 dB):	45 Hz - 20 kHz [MR524] 38 Hz - 20 kHz [MR624] 35 Hz - 20 kHz [MR824]
音圧レベル @ 1m, +4 dBu バランス入力	102 dB SPL @ 1m [MR524] 105 dB SPL @ 1m [MR624] 107 dB SPL @ 1m [MR824]
最大音圧レベル (ペア)	108 dB SPL @ 1m [MR524] 111 dB SPL @ 1m [MR624] 113 dB SPL @ 1m [XR824]

トランスデューサー

低域ドライバー	5.25 インチ / 133 ㎜ ポリプロピレンウーファー [MR524] 6.5 インチ / 165 ㎜ ポリプロピレンウーファー [MR624] 8.0 インチ / 203 ㎜ ポリプロピレンウーファー [MR824] ネオジムマグネット
高域ドライバー	1 インチ / 25 ㎜ シルクドームツィーター

アンプ

低域用パワーアンプ	30 W, 4Ω, 60 Wピーク [MR524] 40 W, 4Ω, 80 W ピーク[MR624] 55 W, 4Ω, 110 W ピーク[MR824]
高域用パワーアンプ	20 W, 6Ω, 40 Wピーク [MR524] 25 W, 6Ω, 50 W ピーク[MR624] 30 W, 6Ω, 60 W ピーク[MR824]
タイプ	モノリシックIC, クラスAB DMOS Power Stage

クロスオーバー

クロスオーバータイプ	24 dB/octave
クロスオーバー周波数	2 kHz [MR524] 3 kHz [MR624] 1.9 kHz [MR824]
感度	+4 dBu @ 300 Hz 最大出力時
入力インピーダンス	20 kΩ, バランスブリッジング 10 kΩ, アンバランス

イコライゼーション

高域EQ	±2 dB @ 3 kHz またはそれ以上 [MR524 / 624 / 824]

AC電源

電源要求	～100 V, 50/60 Hz
ACコネクター	3ピン IEC 250 VAC, 15 A male
ヒューズ	115 VAC: T 1 AL / 250 V [MR524] 115 VAC: T 1.6 AL / 250 V [MR624] 115 VAC: T 2 AL / 250 V [MR824]
消費電力	90 W （w/music, loud mix） 10 W （アイドル時） [MR524] 120 W （w/music, loud mix） 11 W （アイドル時） [MR624] 150 W （w/music, loud mix） 12 W （アイドル時） [MR824]

注意：国内正規輸入品のMRモニターシリーズは100V専用モデルです。日本国外での使用はできません。

寸法・重量

MR524

エンクロージャー	12 ㎜ 中密度繊維板 (MDF) 21 ㎜ 中密度繊維板 (MDF) フロントパネル
寸法	
高さ：	11.1 インチ / 281 ㎜
横幅：	7.1 インチ / 180 ㎜
奥行き：	8.7 インチ / 221 ㎜
質量：	4.6 kg

MR624

エンクロージャー：	12 ㎜ 中密度繊維板 (MDF) 24 ㎜ 中密度繊維板 (MDF) フロントパネル
寸法	
高さ：	12.9 インチ / 328 ㎜
横幅：	8.3 インチ / 210 ㎜
奥行き：	11.2 インチ / 284 ㎜
質量：	7.5 kg

MR824

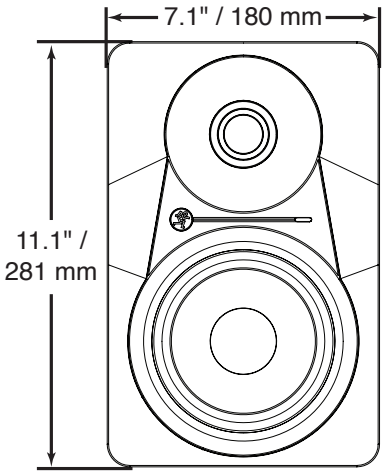
エンクロージャー：	15 ㎜ 中密度繊維板 (MDF) 33 ㎜ 中密度繊維板 (MDF) フロントパネル
寸法	
高さ：	15.7 インチ / 400 ㎜
横幅：	10.1 インチ / 256 ㎜
奥行き：	12.6 インチ / 320 ㎜
質量：	10.4 kg

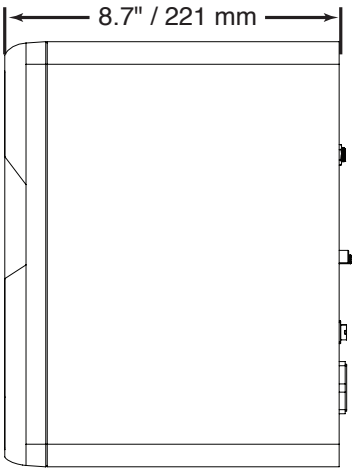
LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」は、LOUD Technologies 社の商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

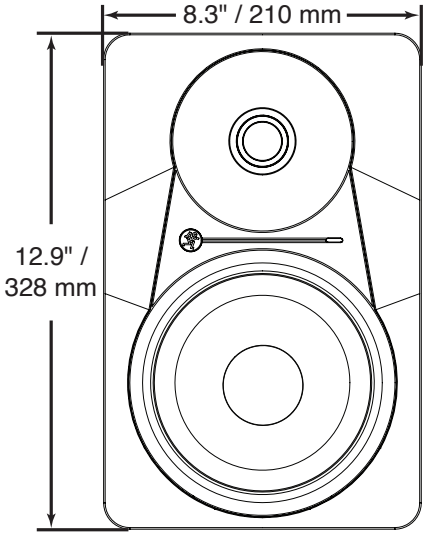
寸法

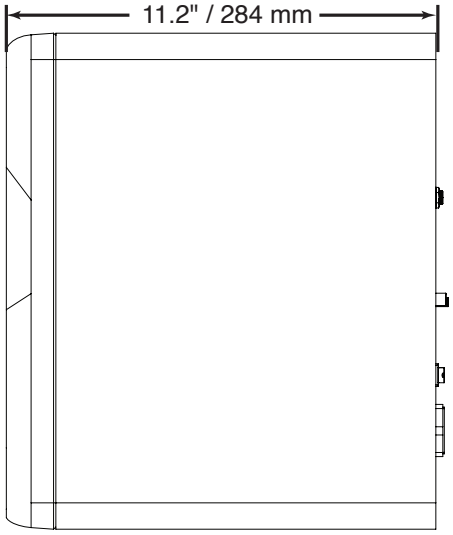
MR524



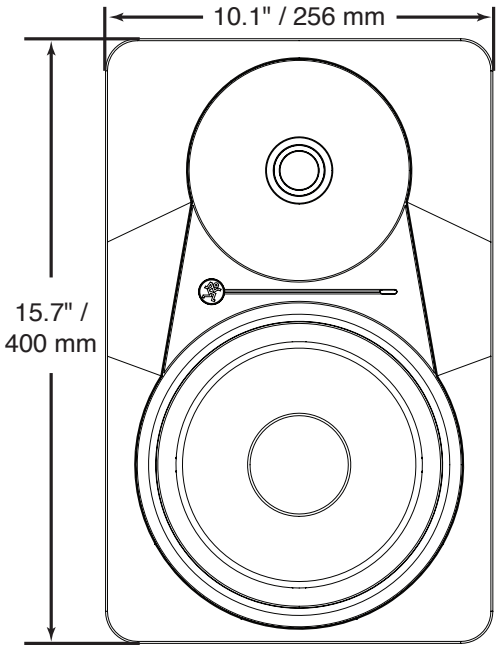


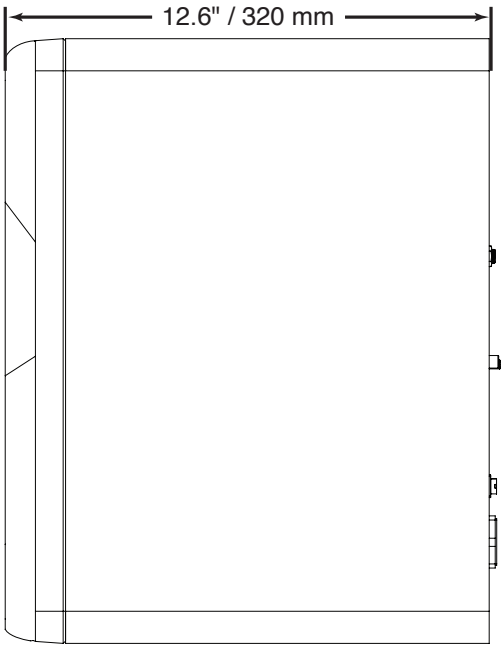
MR624



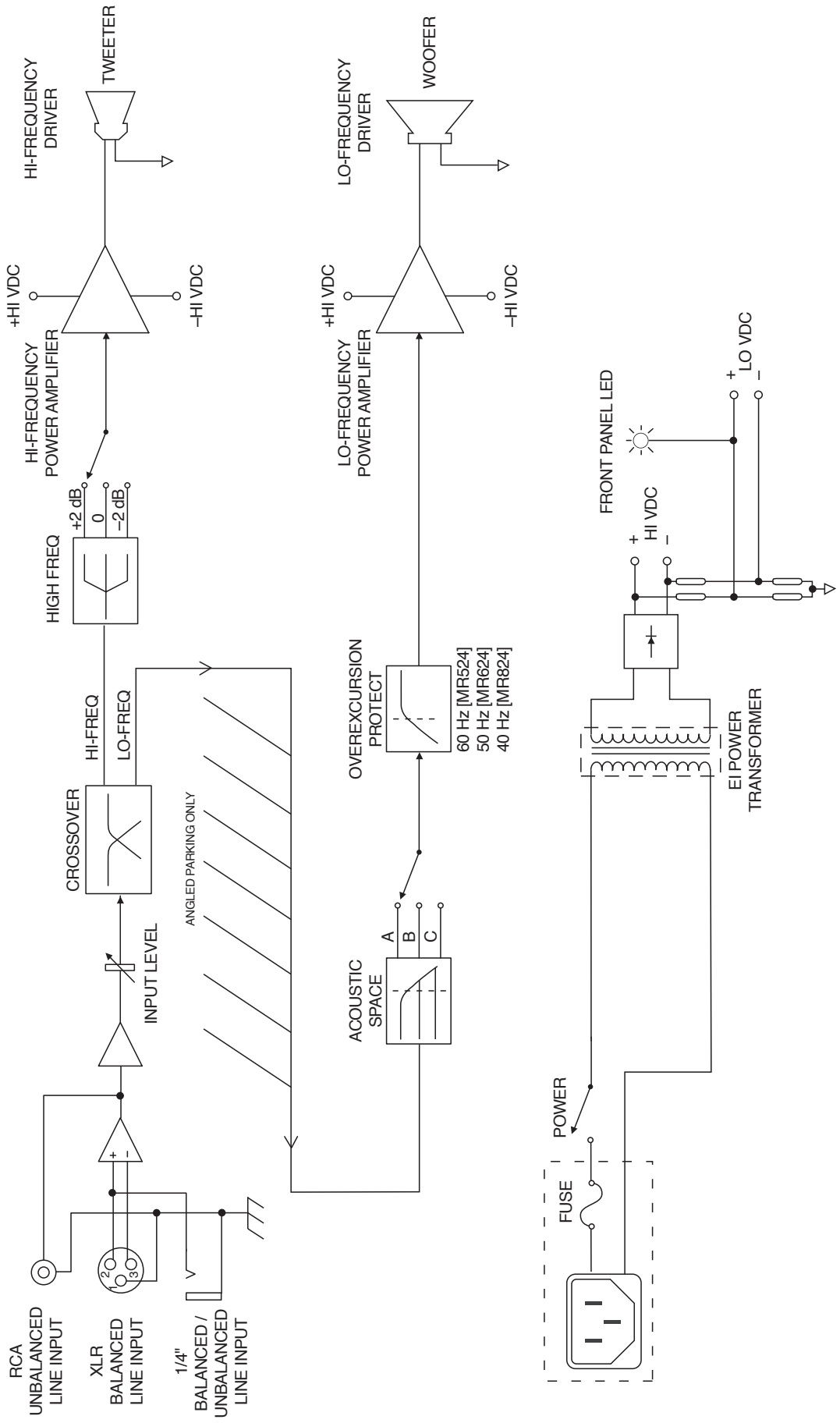


MR824





ブロックダイアグラム


HI-FREQUENCY DRIVER
TWEETER
+HI VDC
–HI VDC
HI-FREQUENCY POWER AMPLIFIER
LO-FREQUENCY DRIVER
WOOFER
+HI VDC
–HI VDC
LO-FREQUENCY POWER AMPLIFIER
FRONT PANEL LED
+
HI VDC
–
+
LO VDC
–
+2 dB
0
–2 dB
HIGH FREQ
HI-FREQ
LO-FREQ
CROSSOVER
ANGLED PARKING ONLY
INPUT LEVEL
OVEREXCURSION PROTECT
60 Hz [MR524]
50 Hz [MR624]
40 Hz [MR824]
A
B
C
ACOUSTIC SPACE
EI POWER TRANSFORMER
POWER
FUSE
RCA UNBALANCED LINE INPUT
XLR BALANCED LINE INPUT
1/4" BALANCED / UNBALANCED LINE INPUT